

たよ町



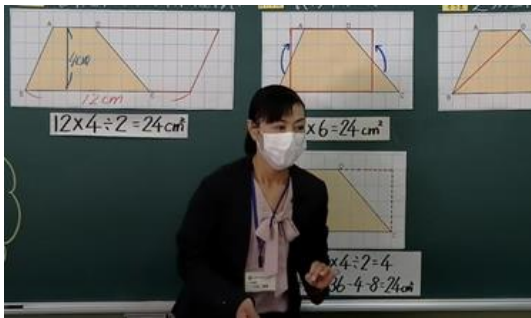
令和4年2月28日
伊勢市教育研究所
伊勢市小俣町元町540番地



令和3年度教育研究プロジェクト【今日的課題に係る実践研究】

中島小学校公開授業研究会

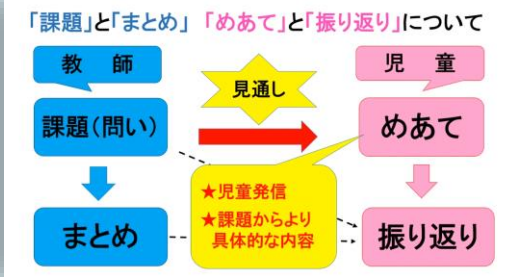
研究会報告
第2弾



令和4年1月24日（月）今日的課題に係る実践研究の公開授業研究会がオンラインで開催されました。

今年度、算数科において「主体的な学びを構築する『振り返り』のあり方」について研究に取り組んできた **木村真澄 研修員**(授業者)による研修報告を兼ねた研究会でした。研究会には、本プロジェクトに関わっていただいている皇學館大学教育学部 **中條 敦仁 教授**をお迎えし、示唆に富むご助言をいただきました。また、参加者の方からは多くのご質問、ご意見感想をいただき、大変有意義な時間となりました。（なお、木村研修員の報告は、中條教授よりいただいたご助言も含めまして、3月発行の「しょほう」において報告させていただきます。）

<木村研修員の報告より>



<中條教授（左下写真）より>

「振り返り」は、「振り返り活動」のみで成立するものではない。「ねらい」「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」と、それに付随する「問い」「授業（展開）」「評価規準」、さらに「素材研究・教材研究」、「学習指導要領との関連性」を含めて、トータルパッケージの中で考え、成立させる必要がある。この中で、特に、「ねらい」と「評価規準」が重要で、この二つが明確になっていれば、何のために、どういう方法による振り返りをすべきかが確定すると考える。また教科特性、単元特性、教材特性もあるため、それぞれの授業毎に「振り返り」の方法を見極める必要がある。



<参加者の感想より>

- ・振り返りを充実させることで、主体的に学ぶ力や学習意欲の向上、学力向上につながるものが、実践を通して具体的にわかりました。こちらが意図を持って段階的に「振り返り力」を身につけさせることで、意義ある活動になるのだと思いました。
- ・その時間だけの「振り返り」ではなく、前時の「振り返り」も活かしながら単元全体で学びを深めていく姿が素晴らしいと思った。
- ・ICT、タブレットを活用することで、子どもの学力向上に結び付いていることがよく分かった。小学校の教科担当制の可能性が明るくなった。
- ・児童が自分ごととして捉えることのできる「めあて」の設定がなされており、「振り返り」を書くことに対しても段階的に積み上げた指導がなされていました。





ボッチャ体験 2月 (会場：大研修室)

2月1日(火)スポーツ課のみなさんを講師としてお招きし、パラリンピック競技にもなっている『ボッチャ』を体験しました。『ボッチャ』をするのは全員が初めてだったので、最初は緊張していましたが、徐々にボールの扱いに慣れ、上手にボールを投げられるようになりました。良いプレーが出ると「すごい！」という歓声が上がりたり喜んだりする様子が見られ、終始温かい雰囲気の中でボッチャを楽しむことができました。休憩時間になってもボールを投げ続ける姿が印象的で、ボッチャに熱中していることがよくわかりました。

『ボッチャ』の体験を終えた子どもたちからは、「最初は難しそうだと思ったけど、やってみるとすごく簡単で、近くに寄せられたときは嬉しかったです。」「ボールの上にボールを乗せていてすごいと思った。」「力加減が難しく、なかなか思うように投げられなかったけど、いろいろ考えながらプレーをするのが楽しかった。」という感想をきくことができました。



スポーツ課のみなさん、
本当にありがとうございました。



ボッチャとは？！

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

障害によりボールを投げることができなくても、勾配具(ランプ)を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。

競技は男女の区別のないクラスに別れて行われ、個人戦と団体戦(2対2のペア戦と3対3のチーム戦)があります。

〔一般社団法人日本ボッチャ協会 HPより〕



絶賛貸し出し中！

～終わらない自己研鑽の旅へ～

- 学校の「当たり前」をやめた。
著：工藤 勇一
- 教育DXで未来の教室をつくろう
著：浅野 大介
- 算数科授業のユニバーサルデザイン
著：久木田 雅義



お問い合わせは、教育研究所まで★